

登録番号 第 14205 号

サンバード®粒剤

特長：
 ●田植直後から散布できます。
 ●直播水稻でも使用できます。

サンバードは三井化学アグロ(株)の登録商標です。

有効成分	ピラゾレート (PRTR 法第 1 種) ……10.0%	包装	3kg×8
性状	類白色細粒	有効年限	5 年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用雑草の範囲及び使用方法】

2011年4月6日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	ピラゾレートを含む農薬の総使用回数
移植水稻	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ハラモダカ ヒルムシロ	移植直後～ ルビエ1葉期、 ただし、 移植後30日まで (近畿・中国・四国、九州では、移植直後～ ルビエ1.5葉期、ただし、移植後30日まで)	壤土～ 埴土	3～4 kg/10a	2回以内	湛水散布	北海道	2回以内
	砂壤土～ 埴土		全域(北海道を除く)の 普通期及び早期栽培 地帯					

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	ピラゾレートを含む農薬の総使用回数
直播水稻	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ヘラオモダカ	は種時	砂壤土 ～埴土	3kg/10a	1回	は種同時散布機で施用	全域	2回以内
	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ			1.5kg/10a (少量散布)			全域(北海道を除く)	
	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ヘラオモダカ	は種直後～ビエ1葉期、ただし、収穫90日前まで(近畿・中国・四国、九州(埴土～埴土)では、は種直後～ビエ1.5葉期、ただし、収穫90日前まで)		3kg/10a	2回以内	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	全域	
	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ	は種直後～ビエ1葉期、ただし、収穫90日前まで		1.5kg/10a (少量散布)		湛水散布	全域(北海道を除く)	

使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきることを。
- (2) 本剤は雑草の発生前から発生初期に有効なので、移植水稻については、移植後ノビエの1葉期(近畿・中国・四国、九州では1.5葉期)まで、直播水稻については、は種後1葉期(近畿・中国・四国、九州(埴土～埴土)では1.5葉期)までに散布すること。なお雑草、特に多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ミズガヤツリでは発生前から発生始期、ウリカワ、ヘラオモダカでは発生前から2葉期、オモダカは発生始期まで、ヒルムシロでは発生期までが本剤の散布適期である。
- (3) オモダカは発生期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さないので、必要に応じて有効な後処理剤と組み合わせて使用すること。また、オモダカに有効な後処理剤と組み合わせて連年施用することにより、さらに効果が向上する。
- (4) 散布後少なくとも3～4日間はそのまま湛水状態(水深3～5cm)を保ち、田面を露出させたりしないように注意し、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (5) 少量散布(1.5kg/10a)は湛水条件(水深2cm)で処理し、後処理剤との体系で使用すること。
- (6) 直播水稻のは種時に通常の湛水状態より水を落として散布する場合は、散布後速やかに通常の湛水状態(水深3～5cm)にすること。
- (7) 本剤を無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
 - 1) 散布は散布機種ごとの散布基準に従って実施すること。
 - 2) 散布に当たっては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
 - 3) 事前に薬剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整すること。
 - 4) 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、散布装置のインペラの回転数を調整し、圃場の端から5m離れた位置から圃場内に散布すること。
 - 5) 水源池、飲料用水等に本剤が流入しないように十分注意すること。
- (8) 軟弱苗を植付けた水田では使用をさけること。
- (9) 漏水田(減水深2cm/日以上)では、葉害を生じるおそれがあるので使用しないこと。
- (10) 九州、南四国などの暖地で移植期が遅く、処理後著しい高温が続く場合には、砂壤土では稲にクロロシスを生じる場合があるが、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (11) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (12) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常的使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。また、吸湿しやすいので開封後は堅く口を閉じ、長期間の保存はさけること。